

学校長より

今夏 石中生の「地域づくりボランティア」

昨年度、「中学生ができる地域貢献～夏祭りスタッフを中心に～」で始めた取組も今夏が2回目となりました。昨年度は全9区のうち参加者0人が4区もあり、全校としては30名の参画でしたが、今回は0人の区がなくなり、総数も40名を超えました。さらに、昨年度以上に「企画、準備段階からの中学生の参加」も実現し、来年度は「企画、運営への参画」を全区に大々的に呼びかけていけそうなこともうれしい傾向です。

元々、この取組を定着させるには、少なくとも3年は必要だと思っていました。要するに「ホップ、ステップ、ジャンプ」です。「まず始める、全体に広げる、中味を深めていく」・・・1年目から2年目、そして2年目から3年目へと取りかかる際には、必ず同じように進めていかずに、何らかの工夫が必要です。それを実行することで、企画に見合う成果とともに次の段階への欲が生まれてきます。言うまでもなく、その工夫の基本は「人とのつながり方」であることを忘れてはなりません。合理的で形式的な取組では、決して進展しないものです。地域の方と、日常を含めて、より果敢に、どんな関わりを実践していくかが問われてきます。

(宮治 一幸)